

小学校 社会科 部会

部会長名 校長 高上 克也
実践者名 教諭 稲富 博明

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を育む社会科学学習指導
～新たな課題を生むための資料提示による見通しのもてる学習活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

知識基盤社会といわれる現代社会において、近年著しいのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度を増し、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進むようになってきていることである。このような予測不可能な社会を生きる子ども達には、その変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮しながら、よりよい社会の幸福な作り手となることが望まれる。そのために必要な力「生きる力」を育成することがより一層求められている。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会では、今後、子ども達に育成すべき資質・能力は、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」であるとしている。そして、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を提起している。

(2) 学習指導要領の趣旨から

新学習指導要領では、従来の各教科等の指導による「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が答申で提起された子ども達に育成すべき三本柱として、求められるようになってきた。さらに、各教科等の指導による目標や内容も再整理され、「何ができるようになるか(資質・能力)」「何を学ぶか(内容)」が明確化されている。また、総則では「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施のあり方(カリキュラムマネジメント)や子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示されている。

今後、各学校では次年度より全面実施される新学習指導要領で示された内容をもとに、教育課程の見直しや授業改善を進めていくことになる。このことをふまえ、社会科においても社会的な見方・考え方を深めるための授業づくりが求められている。

3 主題の意味

(1) 「思考力・判断力・表現力を育む」とは

人が直面した問題を解決するときを使う力で、「現状や過去の経験などから様々な情報を取り出して関係づけて考える力」「情報の軽重や関係づけ方の正否などを判断する力」「思考・判断した結果を相手にわかるように表現したり、考えを練りあってよりよい考えに高めたりする力」を育むことである。

(2) 「新たな課題を生むための資料提示」とは

- ① 単元を貫く学習の中心資料として「つかむ」段階において提示し、学習問題づくりのみならず、その資料をもとに「調べる」「まとめる」段階でも振り返ることのできる資料のことである。
- ② 課題が連続するための毎時間の資料提示のことである。

(3) 「見通しのもてる学習活動」とは

単元を貫く学習の中心となる資料提示から「つかんだ」学習問題を、解決するための具体的な方法や教材のもつ社会的な価値を通して、働く人々の工夫や大切な思いに気づき、「まとめる」までの学習活動を見通すことである。

4 研究の目標

単元における「つかむ」「調べる」「まとめる」学習過程における新たな課題を生むための資料提示を行い、見通しをもった学習活動を仕組むことで、思考力・判断力・表現力を育み、社会的な見方・考え方を深める社会科学習指導のあり方について究明する。

5 研究仮説

社会科学習において、児童の意識が連続する資料提示の工夫及び見通しをもった学習活動を仕組むことができれば、児童の社会的な見方・考え方を生かした思考力・判断力・表現力を育むことができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 単元「くらしを支える情報」

小単元「情報を伝える人々」

(2) 小単元の目標及び指導計画

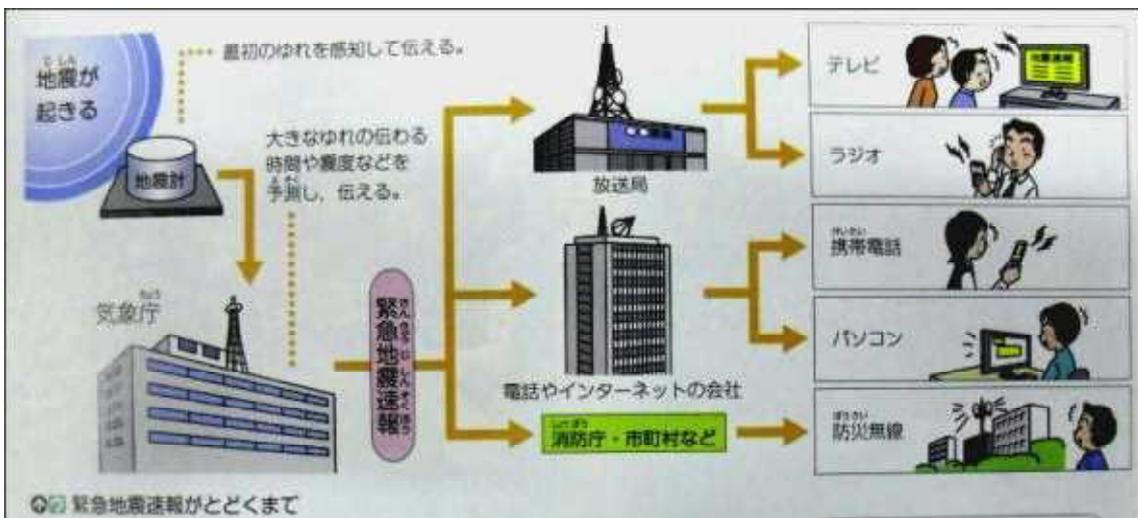
単元	情報を伝える人々	総時数	4時間	時期	12月
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大切な情報が多くの人にすばやく届けられる仕組みについて興味をもち、学習問題をつくって意欲的に調べることができる。(関心・意欲・態度) ○ 情報を広く伝えるマスメディアの役割について調べたことをもとに、マスメディアの情報発信における影響の大きさや責任について考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現) 				

		<p>○ 教科書の写真や図から、様々なメディアを通じた情報の発信の様子について、正確に読み取ることができる。 (技能)</p> <p>○ 情報を伝える人々の工夫や努力、情報を伝える際に気をつけていることなどがわかる。また、様々なメディアの特色がわかり、状況や手に入れた情報に応じて、メディアを使い分けることの必要性をとらえることができる。 (知識・理解)</p>	
次時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(働・観)
1 本時	<p>緊急地震速報が届く仕組みなどを調べ、大きな情報がどのように人に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて、学習問題を作ることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>学習問題：情報は私たちの生活にどんなかわりや影響があるのだろうか。</p> </div>	<p>○ 緊急地震速報のような大切な情報が届けられる仕組みを調べ、情報を伝える人々のはたらきや情報が生活の及ぼす影響について、学習問題をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料をもとに、災害時に必要な情報がすばやく伝えられる様子について話し合わせる。 ・緊急地震速報の仕組みについて図や放送局の人の話を読み取らせる。 ・情報を受け取る手段について学習問題を持たせる。
2	<p>テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局の働きについてとらえることができる。</p>	<p>○ テレビのニュース番組がどのようにつくられて放送されているのか、資料を読み取って調べ、わかったことを話し合ってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真から放送局におけるニュース番組制作の流れを読み取らせる。 ・番組制作の各場面で気をつけていることなどを話し合わせ、働いている人たちが大切にしていることをまとめさせる。
3	<p>震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色や、それらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性をとらえることができる。</p>	<p>○ 東日本大震災の時に役立ったメディアに関する資料などをもとに、自分たちが日頃、様々なメディアから情報を手に入れていることを調べ、その特色や活用の仕方について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から災害時にどのような情報をどのような手段で発信・受信するのがよいか話し合い、調べさせる。 ・様々なメディアの必要性から特色を整理させる。
4	<p>放送局や新聞社で働く人たちが様々な注意を払って情報を発信していることな</p>	<p>○ マスメディアが伝える情報の違いや影響について調べ、マスメディアが発信する情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞資料をもとに表現方法の違いやなぜ違う伝え方になるのか話し合わせ

<p>どを調べ、マスメディアの情報と自分たちの生活との関わりについて考えることができる。</p>	<p>と自分たちの生活との関わりについて話し合い、考えをまとめる。</p>	<p>る。 ・マスメディアが気をつけていることや自分たちの暮らしへの影響をまとめさせる。</p>
<p>まとめ：情報は伝える人たちの努力や受けとる私たちの正しい使い方があることで、役立つことができる。</p>		

7 指導の実際

- ① 主眼 緊急地震速報が届く仕組みなどを調べるを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて学習問題を立てられるようにする。
- ② 準備 PC、緊急地震速報（音声）、資料「緊急地震速報が届くまで」



③ 展開

	学習活動	指導上の留意点
<p>導入 ⑩</p>	<p>1 写真資料をもとに、災害時に必要な情報がすばやく伝えられる様子についてつかむ。</p> <p>めあて 大切な情報（地震速報等）をどのようにして手に入れているのか話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報画面、音声を通して、どのような情報が伝えられているかを話し合わせ、その重要性（誰の、何のためか）に気づかせる。（地震の起きた場所、揺れへの備え、情報発信者等知りたいことをあげさせる） ・緊急地震速報をどのように入手するかについて予想させる。（テレビ・携帯電話・スマートフォン・新聞・インターネット・ラジオ・防災無線等多様なメディアの存在を予想させる。）
<p>展</p>	<p>2 緊急地震速報がどのような仕組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中心資料「緊急地震速報が届くまで」をもとに、

開 ⑮	<p>みで伝えられているのか、仕組み 図や放送局の人の話から読み取っ て、調べる。</p> <p>①資料からわかること</p> <p>②放送局の人の話からわかること</p> <p>3 ペアで交流する。</p> <p>4 全体で、情報を受け取る手段に は何かあるか調べ、多くの人が利 用するテレビや新聞等について学 習することを確認し、まとめる。</p> <p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>情報受け取りの手段は色々ある。 メディアと暮らしへの影響につ いて考えていこう。</p> </div>	<p>どのような経路で情報が届くかの部分（入手元か ら）をつかませる。（詳細を調べる方法も紹介する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁から放送局に伝わり、テレビやラジオで放 送される。 ・消防庁や市町村にも伝わり、防災無線による放送 で伝えられる。 ・携帯電話やパソコン・スマートフォンで受け取る ことができる。 ・地震を感知したらすぐに（正しく）伝えられる仕 組みになっていることに気づかせる。 <p>・速報やニュースなど大切な情報を得る手段は、何 が多いか予想させた後、資料を提示して確認させ る。</p> <p>・テレビから情報を得ていることが多く、くらしに どんな影響を与えているのか考えさせる。</p> <p>・次時からの学習（メディアの影響等）の見通しを 持たせる。</p>
--------	---	---

8 研究のまとめ

小単元の「つかむ」段階においてを情報伝達の仕組みを示す中心資料「緊急地震速報が届くまで」は、新たな課題を生むための資料として有効であった。その理由として、2点あげられる。

- ①子どもたちにとってどのような情報が、何を通して伝えられているのかや誰のためのもの、何のためのものかといった必要感のある情報（情報の正確性・信頼性・即時性）であることがすぐに確かめることができた。それは、避難訓練の際の話や命に関わる行動の情報であることを知っている等児童の身近に感じられる資料であったからである。
- ②情報伝達の経路を簡単にまとめてあり、全体を見て情報伝達の流れを読み取ることのできる資料であると同時に、情報受信手段の多様さからこれからの学習問題（メディアの情報発信について）をもつことができる資料であったからである。

以上のことから、子どもの課題意識や学習意欲を高め、これからの単元を見通し、課題解決を行っていく中心資料となった。

次に、見通しがもてる学習活動としての資料としても有効であった。なぜなら、「緊急地震情報が届くまで」の仕組みの視点として学習する一方、「情報を伝える人々」の視点で、情報発信する側が、何を大切にしているのかを「調べる」手段や方法について話し合い考えながら、見通す学習として組み立てることができたからである。さらに、伝えられた情報を受け取る側がどのようにくらしに生かしているのかといった視点で

も、様々なメディアを取り扱っており、子どもたちの知っているメディアの偏りはあるもの子どもたちに身近なものとしてとらえることができた。そして、私たちがそれら様々なメディアからの情報（例：天気予報、CM など）を生かして生活していることにも気づくことができた。

したがって、「緊急地震速報が届くまで」の資料は、その後の別の小単元学習「情報を生かすわたしたち」においても、情報は必ず発信する側と受信する側の立場に立って考えることが必要である学習につなげることができたと考える。（資料1）

1/29(水) P26~27

まとめる、深める
めあて
キーワードに注目してふり返ろう。
↓
情報化、個人情報

① 便利な点	不安な点
<ul style="list-style-type: none"> 回線や電波がなくても利用できる 必要な情報を探しやすくなる いつでもどこでもインターネットが使える 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも簡単に情報のせりふれるので、まちがった情報や有害な情報が多い 悪質な情報や詐欺に引っかかる インターネットが止まると、ネットが使えない

② 情報化とわたしたちの暮らし（タイトル）

（キ）便利な点を書く
（ク）不安な点を書く

③ インターネットを使用するときの大切なこと

④ 情報のやりとりの中で、個人情報に気をつける。

⑤ インターネットを使うとき、大人と相談

まとめる 情報化・個人情報

① 便利な点	不安な点
<ul style="list-style-type: none"> インターネットを通じて得た情報を自由にひたすことができる ニュースをすぐに受けとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報を守れない 知らない人からのメールがくる

めあて
キーワードに注目してふり返ろう。
↓
情報化、個人情報

② 情報化とわたしたちの暮らし（タイトル）
キーワード（情報化が進んでいくのに大切なのはなにが？）

インターネットが広まり、だれかが情報を簡単に手に入れたり、遠くの人と情報をやりとりすることができず。しかし、インターネットをつかうときに大切なことをわすれてしまうと大変なことになる可能性があります。

資料1

9 成果と今後の課題

- 「緊急地震速報が届くまで」の資料提示は、緊急地震速報のもつ緊急性・必要性・正確性といった観点と児童の既知に加え、新たな課題意識（仕組み）を持たせて解決する意欲を持たせ、学習課題を出し合い考えを深め合う点において有効であった。
- 「緊急地震速報が届くまで」の資料を通して、情報が様々なメディアを通じ伝達されることが分かり、送る側と受け取る側双方の立場から考える等、課題設定、解決方法、予想等見通しをもって主体的に考えを深めることができた。
- 教師からの資料提示であったので、子どもが主体的・対話的に深く学んでいくには、児童自ら課題解決のために資料の取捨選択を行える場の設定が必要である。
- 個別の資料提示や補助発問の工夫などにより、課題解決のために具体的な見通しがもてるよう手立てが必要である。

◎ 参考文献

- 小学校指導要領解説 社会編（文部科学省）
- 社会科指導資料（教育出版ホームページ）